

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て
確かな学力の向上	① 基礎学力の定着	教務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新入生に対し、中学の内容の学び直しを行う。</li> <li>○ 基礎学力定着のために、年に2回学習計画を作成し、学習の習慣化を図る。</li> <li>○ 学年と協力しながら、成績不振生へのサポートと学習法のアドバイスをを行う。(特に2学期)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 5月まで朝の読書の時間10分間を利用し、国・数・英(各10回)の学び直しを行う。その後検証し、次年度に生かす。</li> <li>○ 基礎学力の定着として、学習の習慣化以外に年に2回の学力検討会を利用する。模試の数値で基礎学力の分析・改善を図る。</li> <li>○ 二者面談や三者面談期間を設定し、学習指導等のアドバイスをを行う。学期末の成績に関する会議や学習相談会を実施し、教科担任も含め、個別指導の充実を図る。</li> </ul>
	授② 学力の向上法の改善・	教務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科の垣根を越えた授業公開・合評会を実施し、指導法や評価方法の改善を図る。</li> <li>○ 中学校との教科交流会(国・数・英)を実施し、情報交換や指導法の改善につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年1回の授業公開を実施し、授業力向上に努める。学校生活アンケートの「各教科の授業内容はある程度理解できている。」という項目で授業では理解ができていないと答えた生徒が欠点をとるというのはどこに問題(ズレ)があるのかを探る。</li> <li>○ 西都市内の中学校と教科交流会(国・数・英)を実施し、お互いの課題を共有する。特に新入生の課題はどこにあるのかを明確にしておく。</li> </ul>
	③ 体系的な進路指導・妻高スタイルの充実	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校外模擬試験におけるG T Z : B 2ランク以上を40名以上育成</li> <li>○ 国公立大学合格者40名以上、年内入試で20名以上</li> <li>○ 難関大学、難関学部を目指す生徒の育成</li> <li>○ 私大・短大・専門学校合格率95%以上</li> <li>○ 進路行事を通じた進路意識の醸成</li> <li>○ 就職内定率100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一人ひとりを伸ばすための学力検討会の実施と教科担任との情報共有。</li> <li>○ 全職員で面接・小論文の指導にあたる。また、上位層を伸ばす個別指導を支援する。</li> <li>○ 進路講演会、職業体験ガイダンス、職業理解講座、進路ガイダンスを生徒の実態に合わせ形式で計画的に実施する。</li> <li>○ 一般企業、公務員、自衛隊志望の生徒が早い段階から自ら動くことができるように支援する。県内就職についてエリアコーディネーターと連携する。</li> </ul>
	④ 資格取得の推進	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 英検取得に向けた取り組みの支援</li> <li>○ 情報ビジネスフロンティア科の資格取得、高次資格取得に向けた取り組みの支援</li> <li>○ 福祉科の介護福祉士国家試験に向けた取り組みの支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学科に対応した朝課外・夕課外・土曜講座のあり方を検討し、資格取得の推進を支援する。</li> <li>○ 英検取得に向けた英語の朝課外実施。情報ビジネスフロンティア科の資格取得に向けた資格検定前5日間の朝課外の実施。福祉科の介護福祉士国家試験に向けた福祉科3年の夕課外実施。</li> </ul>
	⑤ 朝読書の充実	図書渉外部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 朝の10分間読書の充実を推進するとともに、生徒の図書の貸出冊数や利用数を上げる。また、図書委員会の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教科・各学年と連携を取りながら読書指導にあたり、図書委員が呼びかけて朝読書の取り組みを促進させる。また、進路指導の一助となる専門書や必要な資料の充実を図るとともに、新聞を利用した情報活用の取り組みを活性化させる。</li> </ul>
	⑥ 学習指導方法の改善・	図書渉外部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業でも利用しやすいように、図書室の学習環境を整え、授業の有効活用の推進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多くの生徒または職員が、図書室を利用できるように、図書室の環境を整備し、年間利用者数や本の貸出冊数を上げる。さらに、授業でも有効活用できるように、学習環境を整える。</li> </ul>

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て
確かな学力の向上	⑦ ICT教育の推進	キャリア情報部	<p>○Google Workspace, Microsoft 365を中心としたクラウドサービスの利用を推進する。</p> <p>○校務・授業においてICT機器を積極的に活用する。</p>	<p>○Google Workspace, Microsoft Teamsの利用を推進する。また、職員研修等を通じて、生徒の活動の記録に留まらず、面談や進路指導等に活用できるようにする。</p> <p>○「一人1台端末」のスムーズな導入を行うため、生徒・保護者に対するの事前説明およびフォロー体制を整える。学校内での利用について、端末の活用に加え、情報モラルやセキュリティ面についての正しい知識を身につけさせる。</p> <p>○本校に配備されたタブレット等のICT機器の授業への利用方法について職員に周知する。また、授業に活用するために必要な機能を充実させる。</p>
	⑧ 難関国公立大学及び歯薬系への進学指導	文理科学コース	<p>○ベネッセ模試でクラスの核となるA1ランク以上の生徒を1名以上育成し、A2ランクの生徒をA1以上に引き上げることを目標とする。九州大学に合格できる生徒の育成を指針とする。</p> <p>○医歯薬系希望生徒の進路実現をサポートする。特に医学部医学科進学を目指せる生徒を育成する。</p> <p>○3年次ではクラスの70%以上国公立大学合格者をを目指す。</p>	<p>○難関大講座を実施し、普通科も含め成績上位10名～15名の難関大学を目指す集団の更なる学力向上を目指す。進路指導部と連携し、難関大講座を、1, 2年生は朝課外に、3年生は夕課外に開設する。1年生は九州大学のオープンキャンパス(8/2～3)に参加し、九州大学への進学意識を醸成する。</p> <p>○生徒との面談を通して医歯薬系を目指す生徒を支援する。西都市地域医療対策室や西都児湯医療センターと連携を図る。</p> <p>○生徒の進路希望や適性を見極め、総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜を利用して受験に臨む。</p>
	⑨ これからの学びの大学入試を見据えた大学の推進	文理科学コース	<p>○各種グランプリやコンテストに応募し挑戦させ、生徒の主体性の育成を図る。</p> <p>○キャリア情報部と連携し、探究型学習活動を推進し、プレゼンテーション能力を育成する。</p>	<p>○1・2年生では「県サイエンスキャンプ」「科学の甲子園県予選」、3年生では科学系オリンピックへの参加を推奨する。</p> <p>○「総合的な探究の時間」にて取り組んだ研究を、文系班は「マイプロジェクトアワード」、理系班は「県サイエンスコンクール」へそれぞれ出品し、上位大会進出を目指す。</p>
	⑩ 基礎学力の確立	普通科	<p>○自宅学習の習慣化</p> <p>○進路に応じた学習の確立</p>	<p>○保護者と連携した理想的な自宅学習サイクルの定着</p> <p>○本校卒業生の大学合格者の事例の紹介(アプリ利用の例を含む)</p> <p>○本校単独/他校との合同学習会を通じた学習についての認識改善</p> <p>○業種別の大学/専門学校の比較検討を踏まえた志望校選定</p>

<p>① 主体的に学ぶ 意欲の育成</p>	<p>普通科</p>	<p>○高大連携の更なる拡大 ○公募制各種コンテストへの応募奨励</p>	<p>○講師招聘・大学説明会を通じた「大学での学び」に対する興味喚起 ○保護者の参加を促すことによる家庭全体の進路意識喚起 ○各教科推薦のコンテストの紹介 ○コンテスト受賞者の全校生徒への紹介</p>
---------------------------	------------	--	--

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て
確かな学力の向上	② 専門的定着・技術	福祉科	○専門的知識・技術の定着を目指した授業を 実践し、学習の成果をあげる。	○授業の確保（定期考査1～3日目に4限授業を実施） ○長期休暇課外の実施 ○進路実現、国家試験に向けた受験態勢確保の整備 に向け職員間で連携する。 ○国家試験合格に向けた夕課外の充実 ○対外模試の分析及び確認テストの実施 ○特編授業(1月)の計画的な実施と充実 ○医療的ケアの充実、根拠を持った演習の実施
	③ 資格取得に向けた支援	福祉科	○介護福祉士国家試験合格率90%以上を目指す。	○介護実習における知識と技術の習得及び国家資格 取得に向けた意識付け ○対外模試の実施と活用（全国模試4回実施）校内 模試の実施 ○個別指導の徹底と指導の工夫
	④ 各種検定取得	情報ビジネスフロンティア科	○各種検定を取得させ、資格取得による達成 感を体得させる。全商検定に限らず、日商簿 記検定や日本情報処理検定協会の各種検定な ど様々な資格取得に挑戦させる。 目標 <日商簿記> 2級10名合格を目指す <情報処理（表計算）> 2級取得者70%を目指す。	○授業で小テストを取り入れながら、理解の遅い生 徒に対して、やり直しなどの早前の対応を行う。検 定前5日間、専門科目による朝課外を実施し、理解 の遅い生徒への対応などを行う。教科担任と朝課外 担当者が連携し、多くの先生方が指導にかかわる。
	⑤ 基礎基本の定着	情報ビジネスフロンティア科	○学力・生活面及びビジネスマナー・情報モ ラルの基礎基本の定着を図る。	○学科集会等を開催し、ビジネスマナーや情報モラ ル、学科生徒の課題など幅広い話や実践活動 を定期的に行い定着を図る

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て
豊かな心の育成	⑯ 基本的な生活習慣の醸成の確立と規範	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全職員で生徒に時間・服装容儀・挨拶・接遇等についてのマナーを身につけられるよう共通理解をはかる。</li> <li>○問題行動の未然防止を図る。</li> <li>○安全意識の醸成を図り、施錠率100%、ヘルメット着用率50%以上をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○率先して服装・容儀やマナー違反への声かけをし、生徒の規範意識を醸成するとともに、定期的に全職員にルールの確認を行う。</li> <li>○朝夕の校門指導や学校内外の巡回指導を定期的実施する。</li> <li>○生徒の実態に応じた講話や集会等を実施し、問題行動の未然防止につなげる。(薬物乱用・ネットトラブル等)</li> <li>○西都警察署や関係機関と連携して、交通安全に対する意識付けを行い、自転車やバイク通学生対象の講習会を定期的実施する。</li> <li>○自転車の整備、施錠点検等を実施するとともに、自転車通学生のヘルメット着用についても呼びかけ、安全意識や交通マナーの向上を図る。</li> </ul>
	⑰ いのちを大切に する 教育の推進	保健環境部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自他の安全と健康及び生命の大切さを理解させ、その実現に必要な知識と実践する力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保健の授業の充実。</li> <li>○心肺蘇生法及びAED操作研修の実施。</li> <li>○保健講話の実施。</li> <li>○各種健康診断等の事前、事後指導の充実。</li> <li>○安全管理指導の徹底。</li> <li>○行事前の健康相談の実施。</li> <li>○日常的な保健指導の実施。</li> <li>○保健委員会活動の活性化。</li> </ul>
	⑱ 環境美化・整備 清掃活動の充実	保健環境部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境美化・整備に対する意識高揚を図り、教室の環境整備や、ゴミの持ち帰り、分別の徹底を図る。(ゴミ袋数、昨年度以下)清掃状況評価の向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○美化ボランティアの実施。</li> <li>○「校内美化週間」を設け、美化委員の活動を促しながら、特に教室の整理整頓の指導充実を図り、清掃状況の評価を行う。</li> <li>○廊下のゴミ箱を最小限にとどめ、ゴミ持ち帰りの徹底を図り、月ごとのゴミ量を定期的に職員・生徒に知らせる。</li> </ul>
	⑲ 防災教育の充実	保健環境部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○防災に対する意識の高揚を図り、危機管理を徹底させる。</li> <li>○職員の役割分担や緊急時行動マニュアルの周知徹底を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年2回の避難訓練を行い、訓練においては、主体的に緊張感を持って真剣に訓練に臨めるような工夫をする。</li> </ul>

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て
豊かな心の育成	⑳ 不登校 不登校傾向の生徒への取り組み	教育相談部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の変化に目を向け、早急かつ適切な対応に努める。</li> <li>○スクールカウンセラーと連携し対応する。</li> <li>○生徒のトラブル等を未然に防ぎ、不登校等による転退学者数の減少を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年会に出会い、担任や副担任、学年との連携を密にし、保護者とも連絡を取りながら迅速に対応する。</li> <li>○生徒の現状や課題を把握するため「学校生活アンケート」を実施する。</li> <li>○スクールカウンセラーと連携し、生徒、保護者のカウンセリングを適宜実施する。</li> <li>○学校不応や友人関係トラブルを未然に防ぐため、生徒向けの研修等の検討及び実施を行う。</li> </ul>
	㉑ 特別支援の必要な生徒への取り組み	教育相談部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援の必要な生徒を把握する。</li> <li>○特別支援教育に関する教科担任会等の企画・運営を行う。</li> <li>○外部機関との連携を行う。(しろやま支援学校、児湯るびなす支援学校、明星視覚支援学校、宮崎県発達障害者支援センター等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新入生の実態把握のため、保護者、出身中学校向けのアンケートの実施と中高生徒指導連絡協議会へ参加する。</li> <li>②特別支援を必要とする生徒についての理解、支援方法等について必要に応じて教科担任会等を実施する。</li> <li>○特別支援学校の巡回相談、宮崎県発達障害者支援センターと連携し、生徒及び保護者の支援に努める。</li> </ul>
	㉒ 教育相談部の組織及び取り組み	教育相談部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育相談部として、関係機関・団体等との連携を推進する。</li> <li>○生徒理解のための校内連携を深める。</li> <li>○教育相談室の環境を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関係機関・団体との連携についての情報収集と具体的取り組みを進める。</li> <li>○中高生徒指導連絡協議会での情報把握のあり方、入学予定者登校日を利用した生徒情報収集のあり方、学校生活アンケートの内容や実施方法を生徒の実態に合わせて検討・実施していく。</li> <li>○教育相談室の運営について、利用生徒への対応が滞らないよう対応していく。</li> </ul>
	㉓ 福祉従事者としての意識づけ	福祉科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○福祉職従事者として必要な資質を身に付けさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○心を育てる専門の授業の実施及び学科運営</li> <li>○他学年と交流を図る機会を設け、福祉を学ぶ生徒としての意識づけを図る。</li> <li>○介護実習(校内・校外)の充実に向けた事前指導、事後指導の徹底と実習施設との連携。</li> <li>○あいさつの励行、言葉遣いや容儀指導等の日常指導の徹底。</li> </ul>

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て
妻高ブランドの確立	⑳ 各学科・コースの魅力づくりの推進	教務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カリキュラムの見直し。</li> <li>○オープンスクールの内容の再検討</li> <li>○アンケートにおいて「良かった」と感じる生徒の割合を90%以上にし、志願者増につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科代表者を有効活用する。</li> <li>○年に2回実施されるオープンスクールの実施方法、内容を検討し、中学生に選んでもらえるような魅力ある学校づくりにつなげる。</li> </ul>
	㉑ 特別活動の推進	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の主体性の育成を図る。</li> <li>○生徒会や各種委員会活動で学校全体の活性化を図る。</li> <li>○部活動生がリーダーシップを発揮し、学校全体を盛り上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事や各種委員会における生徒の主体的な運営を推進する。</li> <li>○生徒会の活動を支援し、更なる活性化を図る。</li> <li>○生徒の活動状況を妻高HPやInstagram等で発信する。</li> <li>○部活動生集会やキャプテン会を適宜開き、部活動を活性化するための課題・具体的な解決の方策を練る。</li> </ul>
	㉒ 個に応じた教育の充実	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の主体性を学びの出発点とした朝夕課外、土曜講座の計画・運営。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3学科1コースに対応した朝課外、夕課外、土曜講座の実施。</li> <li>○生徒が自らの意思で教科科目ごとの講座を選択受講できる朝課外・夕課外を講座制で実施。</li> </ul>
	㉓ PTA活動の充実	図書渉外部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の健全育成のために保護者や地域との連携を深め、PTA活動や研修の活性化とPTA活動の参加率を上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○PTA各委員会の活動内容を見直し、保護者全体で取り組めるような活動のあり方を考えていく。また、本年度は、児湯地区PTAの事務局にもなっているので、研修会を実施し積極的な参加を促す。</li> </ul>
	㉔ スクール・ミッションの策定	図書渉外部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路指導を充実させるために、各学科に必要な専門書や、進学に必要な資料や蔵書の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路実現に向けた小論文指導や教科指導に向け、図書の整備を進め、蔵書の充実を図る。</li> <li>不足している分野の補充に努めながら、話題の本や新刊書の購入も積極的に行いたい。そのため、昨年に引き続き図書館および蔵書室の整理および古い蔵書の廃棄処分を計画的に行っていく。</li> </ul>

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て
妻高ブランドの確立	⑳ キャリア教育の充実	キャリア情報部	○各学科・コースに応じた探究活動の実践を推進する。	○1年次において、普通科・情 Biz 科共通の学びを通して探究・記録の方法や地域の抱える課題について学ぶ。2学年次より地域経済や教育機関と連携した探究活動に取り組む。 ○各学科の目指す進路に応じた大学・企業訪問等を通して進路意識を高め、また、望ましい職業観・勤労観を身につけさせる。
	㉑ 各学科・コースの魅力づくりの推進	文理科学コース	○文理科学コース3学年間の縦の繋がりと一体感を醸成するために、生徒が活躍する場を提供し、コースとしての魅力を高める。 ○学校行事や対外的な活動を通して、生徒が文理科学コースの一員として誇りをもって活動できるように支援する。	○年間12回実施を目的に文理科学コース集会を実施する。司会・運営を生徒に任せ、様々な行事や大会等で活動した生徒たちの発言の場を作る。学年を超えたグループ活動を通して、縦の繋がりと一体感を醸成する。 ○オープンスクール、地域の小中学校との連携・協働を通して、コース代表として生徒たちが活躍できる場を提供する。
	㉒ 在籍生・卒業生が満足できる学びの提供	普通科	○英検取得率の向上 ○情報系資格取得率の向上	○英検に関して、1年生段階からの第2回・第3回での計画的な受験の促進 ○英検に関して、受験前の級別学習会の継続的实施(英語科へ依頼) ○情報系資格取得に関して、1年次授業「情報」の履修を踏まえた資格取得への意欲喚起 ○情報系資格取得に関して、3年次授業「情報処理」受講生徒全員の取得(商業科へ依頼)
	㉓ 創造的な能力と実践的な態度の育成	情報ビジネスフロンティア科	○商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、経済社会の発展を図る能力と実践的な態度を育てる。	(1年) インターンシップ(3日間) 西都市内の事業所を中心に3日間のインターンシップを実施する。 (2年) 総合的な探究の時間 地域や地元企業などと連携を図り、商業で学んだ知識技術を活用しつつ実践を行う。 (3年) 課題研究 西都市内や県内企業と連携を図りながら、研究を進める。また、Unityを活用し、西都市に関するメタバースやVRコンテンツ作成を行う。

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て
地域とともにある学校創り	ス③③ コミュニケーションの推進	教務部	○中高連携の取り組みを積極的に利用する。	○教科交流会(国・数・英)等を有効活用する。管理職の先生方の協力をもらいながら、中学校との連携を強める。
	③④ 地域の推進 連携の 中高	生徒指導部	○地域の教育力や教育資源を学校教育に生かす。	○地域のボランティア活動に積極的に参加させる。
	ス③⑤ コミュニケーションの推進	図書渉外部	○同窓会その他関係機関と連携しながら、地域と共にある学校を目指す。	○地域と共創しながら、本校ならではの事業を展開することで、生徒達が母校への成就感を得られるよう促す。
	③⑥ 広報活動の充実	キャリア情報部	○「学校ホームページ」やSNSの積極的な運用を行う。 ○「妻高だより」(年4回)の発行・「学校看板」の掲示(年12回)を行う。	○インターネットを利用した情報発信については、学校CMSの内容充実とSNSを活用したタイムリーな発信を目指す。 ○妻高だよりについては、年4回の発行を行う。学校看板については、原則として12回作成する。広報委員会及び各分掌、学科と連携し、内容を充実させる。また、近隣の小中学校や市役所等を通じて、地域に広く配布する。
	③⑦ 中高連携	文理科学コース	○中高連携の取り組みを積極的に行っていく。	○聖陵セミナー等を通じて、中学校との連携を深めていく取り組みを行う。
	③⑧ 小中学校との連携	普通科	○小中学校主催事業への積極的な協力 ○各種ボランティアへの積極的参加	○小学校における学習支援事業への生徒派遣 ○中学校における英検サポート事業への生徒派遣 ○各種ボランティア周知の拡大 ○継続的なボランティア参加者の全校生徒への紹介

自己評価【A：十分達成している B：おおむね達成している C：検討の余地がある D：不十分である】

結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
<p>○今年度は全教科、最初の授業で評価方法について生徒に説明し、見通しを持たせることができた。</p> <p>▲入学時のオリエンテーションで、各学科の自宅学習時間（モデル）を提示し、学習習慣の確立を促す必要がある。</p> <p>○中間考査を廃止したが、評価の在り方を含め、今後検証していく。従来の2学期中間考査の枠（4コマ）を単元テスト用に残していたが、教科からの要望も限定的であったので、来年度はなくす方向である。</p> <p>▲LHRの時間を利用し、自宅学習計画をたて、学習に対する意識を高めた。第2回目については、第1回目の集計方法を見直し、従来の形で実施する。</p> <p>○学校生活アンケートで「家庭で勉強に集中できている」という問いに、1年89.8%、2年91.3%、3年92.5%の生徒が答えた。全体で91.1%となり、昨年同時期の93.2%とほぼ同様であった。</p> <p>○学び直しについて、関係職員で検証した。来年度もおおむね今年度の形で実施する方向である。</p>	B
<p>○今年度の教科交流会は、本校職員が妻中学校への授業参観に向かうという形で実施した。大変、学ぶところが多かった。今後、教科会や職員研修で情報を共有し授業改善につなげていく。</p> <p>▲授業改善については昨年度からの取組を変更したこともあり、取りかかりが少し遅れた。事前に目的やねらいを発信し、教科の枠を超えて研修をおこない、教材をあげて一丸となって授業改善に取り組むようにしていくことが必要である。（一部の先生に任せない）</p> <p>▲学校生活アンケート「各教科の授業内容はある程度理解できている」と答えた生徒は1年82.9% 2年90.2% 3年94.0%、全体で88.9%となり、昨年度同時期の92.6%をやや下回っている。</p>	B
<p>○【GTZB2ランク以上】1年7月→11月：33名→32名、2年7月→11月：30名→29名、3年9月→11月：21名→16名。9/5に進研模試で成績上位層を、1学期成績で困難層を検討する学力検討会12年を実施。第2回を12/19予定。</p> <p>○3年生徒向けの面接・小論文講座を7/24、職員向けの小論文指導研修会を8/20に実施。短大・専門学校の合格率は100%。※国公立大学（10名/24名受験、合格率42%）</p> <p>○6/3進路講演会（12年） 6/11進路説明会（3年） 11/12職業体験ガイダンス（1年）を実施。12/24職業理解講座（12年） 3/10進路ガイダンス（2年）を計画。ふれあい看護体験への参加を支援し40名（23年）参加。</p> <p>○公務員講座を12回実施。自衛隊志望者は新田原分駐所担当の方から7月直接指導、8月勉強会に参加。一般企業就職希望者の就職内定率は98%。防衛大学校推薦合格1名。</p>	B
<p>○学科主任と相談の上、資格検定試験の日程を考慮し課外実施時期を定め生徒・保護者に案内。課外受講希望者に対して講座を開講している。</p> <p>○英語科と連携し、朝課外にて全学年対象とした英検講座を実施。準2級、2級、準1級に分け計5講座を5名の先生で実施。大学受験等で重要視される英検2級一次のR6→R7合格率は、第1回14.3%→20.7%、第2回5.7%→26.7%と合格率が上昇。</p>	B
<p>○朝読書の時間帯に、各学年を手分けし様子を見回った。図書委員が前に座り、呼びかけることで1学期より充実した読書の時間に改善されているように思える。</p> <p>●クラスによって取り組み状況に差がある。</p>	B
<p>○昨年度のこの時期よりも、図書の貸出し数は増えている。図書室も大学毎に蔵書を置いたり、行事によって展示を変えるなど、生徒や職員が利用しやすいように図書室の環境を整備した。</p>	B

自己評価【A：十分達成している B：おおむね達成している C：検討の余地がある D：不十分である】

結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
<p>○担当者からの連絡が周知徹底された結果、Windows 10から11へのアップデートが無事終了した。</p> <p>○「一人1台端末」の不具合が、今学期になって何度か生じたものの、年度当初の経験が活かして対処することができた。</p> <p>▲情報（生成AI等）に関する職員研修を、次年度県教育研修センターに依頼し、年間行事に組み込みたい。</p>	B
<p>○11月進研の結果(国数英総合GTZ)では、A1ランク以上に2年生が2名、1年生が0名であった。最頻値としては、2年生がB2ランク、1年生がB2ランクである。教科担任と連携して上位層を増やさなければならない。</p> <p>○3年生の医学科志望の生徒が西都児湯医療センターと連携して頑張っている。1年生には医学科志望に自信がない生徒が1名いる。サポートしていきたい。</p> <p>○学校推薦型選抜I・総合型選抜Iを終えた。これからII、一般入試に向けて担任や教科担任と連携して対応していきたい。</p>	C
<p>○文理学習会で実施している「マニファクチャリング」は生徒に好評であり、この取り組みのおかげで「科学の甲子園」においても生徒が積極的な取り組みを見せた。</p> <p>○2年生は24日実施の文理科学コース課題研究発表会に向けて準備を進めている。今年度からこの発表の先は来年度7月のMSECになっている。さらにより発表にしていきたい。</p>	A
<p>○冬季休業直前に学習会を計画している。</p> <p>▲生徒の参加意欲をかき立てる手立てを実施できていない。</p> <p>▲自宅学習に関して保護者への要請ができていないため、教務部との連携を考えたい。</p> <p>◎年内入試に標準をあわせた学年ごと/学期ごとの生徒向けコンテンツの検討・開発を考えたい。</p>	C

<p>○「大分大学チャレンジ講座」を中核とした「大学の学びを体験する講座」を、12/3現在で計11回実施し、飛躍的に大学講義の雰囲気を感じる機会を増やせた（参加生徒のべ90名・保護者1名）。年度内にあと4回実施予定で、大分大学以外にも農学系・工学系の講師招聘を考えている。</p> <p>▲コンテスト等の紹介が普通科として実施できていない。</p>	B
--	---

自己評価【A：十分達成している B：おおむね達成している C：検討の余地がある D：不十分である】

結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
<p>○授業の確保については、定期考査中の4時間目授業で実施。今後も計画的に時間確保に努める。3年生は冬季休業中の特別授業を実施する。充実した内容になるよう学科で協力する。 介護福祉検定を全学年が受験し、合格に向けて取り組んだ。各学年が国家試験に向け意識の高揚を図ることにつながった。 ○学習に対しての意識の低さや取り組みの甘さが、単元テストや期末テストに結果として現れている生徒が多い。改善に向け、手立てを講じる必要がある。</p>	B
<p>○介護実習：3年生：6・7・8月に20日間 2年生：9月・10月に20日実施 1年生：7月・11月に12日間実施。各学年が専門の学びに対する意欲の向上につながっている。今後も、学科で協力しながら実りある実習になるよう実習施設との連携を図りながら実施していく。 ○3年生：国家試験に向け9月より月1回の模試の実施。冬季休業中の特別授業、1月の特編授業の充実を図る。 ○支援を要する生徒、低学力の生徒については引き続き指導の工夫を行い、実践していく。</p>	B
<p>△小テスト・単元テストや宿題で学習内容の定着を図っているが、成果の出ている部分もあるが、指導時間不足による指導不足もあり定着が図れていない部分もある。 △生徒に問題を解かせた後、丁寧に解説を行うも理解度に差があり苦慮している。 ●検定前朝課外を実施しているが、効果が感じられない。 ●検定申し込み期日遵守及び不受験者指導の徹底を図る必要がある。 &lt;検定試験結果&gt; 全商情報処理検定 1級プロ 8/34. ビ情 3/24 2級ビ情 48/105 全商ビジネス計算検定 1級2名(普通計算1/1 ビジネス計算 4/13) 2級31名(普通算57/66 ビジネス計算34/66) 全商ビジネス文書検定 1級3名(速度6/7 ビジネス文書 3/3) 2級9名(速度25/29 ビジネス文書 44/67) 3級速度 39/46 日商簿記検定 2級0/15 3級13/39 日検情報デザイン検定 1級34/35</p>	B
<p>○必要に応じて学科集会を実施した。 ●容儀面が気になる生徒がいる。「ビジネス」と名の付く学科に属していることを意識させ、いつ社会に出ても通用する容儀にし、正しい言葉遣いとマナーを身に付け実践させていく必要がある。 ●これまでも指導しているにも関わらず、課題等の提出ができない生徒がいる。辛抱強く指導していく。 ○情報モラルについては、授業やクラスで適宜指導している。</p>	C

自己評価【A：十分達成している B：おおむね達成している C：検討の余地がある D：不十分である】

結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>●イエローカード57回（12/10時点）、I端末不適切使用44件。依存傾向により、ルールを認識しつつ使用する生徒が多い。IT端末との距離感を保つ自律心の育成が必要である。</li> <li>○朝の校門指導（挨拶）が継続的に実施され、校内でも挨拶が率先して行われつつあると感じられる。</li> <li>●問題行動2件（特別指導2名、説諭1名）、生徒間トラブル5件。対話力や共感性の低下により、水面下で進行する「見えにくい」トラブルが増加している。深刻化を防ぐため、倫理観の育成に加え、小さな変化を早期に捉える教員の感度を高める必要がある。</li> <li>○薬物乱用防止教室（10/27）を実施した。（保健環境部）</li> <li>○バイク通生に対する第2回実技講習会（11/28）を実施した。交通安全教室は12月25日に開催した。</li> <li>●自転車施錠率：90%（6/20）→69%（7/9）→82%（10/17）</li> <li>●ヘルメット着用率：16%（4/23）→14%（7/4）→14%（10/17）</li> </ul>	C
<ul style="list-style-type: none"> <li>○心肺蘇生法は無事行うことができた。次年度は1学期中に実施できるようにしたい。</li> <li>○性教育講座や薬物乱用防止教室など、特に問題なく実施できた。生徒の取り組みも概ね良かったと感じる。</li> <li>○保健委員会は、前期はポスター制作、後期は「担架清掃班」「保健だより班」「照度測定班」に分かれて活発に活動中である。</li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>○「校内美化週間」では、各クラス美化委員の呼びかけもあり、教室の整理整頓を促すことができた。</li> <li>○月ごとのゴミの量の周知をはかることができた。</li> <li>●夏季に汗拭きシートのポイ捨てが多数見られた。保健環境部からの働きかけももっと必要だった。</li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>△避難訓練では、ほとんどの生徒が真剣に取り組んでいたが、一部真剣さが見られない生徒がいた。</li> <li>△防災士の方々に様々な助言を頂いたので、今後活かしていきたい。</li> </ul>	B

自己評価【A：十分達成している B：おおむね達成している C：検討の余地がある D：不十分である】

結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
<p>○SC、SSWの先生方とも連携し、生徒（36回）、保護者（5回）、先生方（3回）の面談を定期的を実施できた。</p> <p>○教室に復帰できた生徒、進路変更後新しい環境で頑張っている生徒もいる。担任、教科担任、部顧問として関わってくださった先生方に感謝したい。</p> <p>○2回実施した学校生活アンケートの一部抜粋（平均）は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスで充実した学校生活を送っている 97.7%</li> <li>・学習面や部活動面でがんばろうと決めていることがある 97.9%</li> <li>・学校生活で不満に思うことはそれほどない 93.4%</li> <li>・妻高校に進学してよかったと思う 97.0%</li> <li>・授業中に寝てしまうことはない 60.3%</li> <li>・家族で携帯の使用ルールがあり、決められた時間内で使用している 46.7%</li> </ul> <p>●問題発生した際に実施する面談や聞き取りの情報のまとめを一本化できなかったため、振り返る際に時間がかかった時もあった。今後の課題としては関係部署との情報共有の方法について検討したい。</p> <p>●保護者との連携を密にし、医療機関との連携が必要な場合も含め、様々な対応を考えていきたい。</p>	B
<p>○中学校からの引き継ぎ情報は全職員に共有し、継続して生徒指導や支援面からの参考にしていただいている。</p> <p>○困り感を持つ生徒においては、定期的に面談を実施している。ミライム等を利用し、先生方への情報発信も数回できた。</p> <p>○支援学校の先生方より、専門的なアドバイスをいただくことで生徒の支援に活かすことができた。継続的な連携を図っていききたい。</p> <p>●生徒それぞれの「特性」を理解し、共有することが必要である。ただ、生徒の「特性」を把握していくためには、学校だけの判断では正確な判断ができないため、継続して外部機関等の連携を強化していく。</p>	B
<p>○教育相談部の運営に関しては、隣の部屋が使用できるようになり、面談や会議がスムーズにできるようになり、対応の幅が広がった。</p> <p>○相談室の待機職員に関しては、部員内で連携を取り、いつでも対応できるようにしている。</p> <p>相談室利用生徒（常時、一時的なもの）は、1年生8名、2年生4名、3年生1名であった。</p> <p>●思いがけない進路変更などへの対応が数回あり、教育相談部としての関わりが持てないままの状況も発生したため、細かな情報共有を今まで通り継続して行い、教室復帰へのステップとしての役割を果たしていきたい。</p>	B
<p>○多くの学科関連行事において、生徒が役割を担い精一杯取り組んだ。</p> <p>○ボランティアに意欲的に取り組む生徒が多く頼もしく感じる。</p> <p>○実習事前指導等、学科間での学年を超えた学び合いの機会を継続することができた。今後も機会を捉えて実施していく。</p> <p>○実習施設を就職先に選び、内定を頂いた生徒も多く、実習が進路と結びついていることは成果である。</p> <p>●規範意識の低さや判断力のなさから、問題行動を起こし特別指導受け、多くの先生方にご迷惑をおかけした。継続した指導と支援が必要である。</p> <p>●能力の低さやコミュニケーション力の低さが、人間関係の構築において大きく影響しており、課題を抱える生徒も多い。</p> <p>○各学年気になる生徒については、その都度学科内で情報共有し協力ながらその都度対応することができた。</p>	C

自己評価【A：十分達成している B：おおむね達成している C：検討の余地がある D：不十分である】

結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
<p>○先生方の協力により、オープンスクール(6月)を終えることができた。中学生アンケートでは良かったと感じる生徒が96.6%と高い満足度を得ることができたが、部活動紹介においては満足度84.0%であり、改善の余地がある。</p> <p>○今年度の教育課程説明会は学年の意向に沿って内容を少し変更した。より有意義な会になったと思う。</p> <p>●10月の第2回オープンスクールは中学生175名(昨年は158名)の参加であった。職員の見直しが必要である。簡素化も含めて、内容の見直しも今後行っていく。</p> <p>●普通科のカリキュラム改編については今後も関係職員と検討していく。</p>	B
<p>○ひいらぎ祭の体育の部および文化の部では、多くの生徒が企画委員として集まり、役割ごとの企画運営など主体的な取り組みが見られている。</p> <p>○文化祭など、さまざまな行事において生徒会の活躍が見られた。担当の先生方の支援もあり、オープンスクールにおいて装飾や劇で高校生活を紹介するなど、年々活動の質が向上している。</p> <p>○様々な情報発信が行われている。今年度は、2年生総合探究の活動の一環としてインスタ班が設置され、行事を中心に高い頻度で情報を発信している。</p> <p>○オープンスクールでは、全ての部活動の紹介を行った。生徒たちは自分たちの活動を振り返り、中学生や保護者に説明することで、部活動の活性化が期待される。</p>	A
<p>○年度当初に全職員対象に朝課外等に係る諾否について調査し、協力を得られる範囲内で課外計画を立案した。本年度の土曜講座は文理科学コースと福祉科3年のみ実施。</p> <p>○生徒の主体性を学びの出発点とした課外の実施のため、参加を強制するのではなく、各講座の内容を紹介した上で、生徒が自ら選択できるようにした。情報ビジネスフロンティア科の受講登録は1年71%、2年92%、3年94%(試験は主に11月)。1/25の介護福祉士国家試験に向けた福祉科3年夕課外受講登録は100%。</p>	B
<p>○全国高P連大会(8/20~22)、県高P連大会(10/3~4)、県高P連普通・総合学科部会研修会(11/25)、児湯地区母親研修会(12/6)に参加し研修を深めることができた。</p> <p>○広報委員会のPTA新聞発行、生活委員会の夏祭り巡回指導(7/18・19・20)2学年の教育課程説明会では、学力向上委員会が企画し講話を実施した。また、本校が担当する児湯地区母親研修会(12/6)にも研修委員会が参加し、PTA各委員会も活動した。</p>	A
<p>○1学期に続き、蔵書の整備や古蔵書の廃棄処分は、計画的に実施されている。</p> <p>●小論文指導や教科指導に関わる進路実現に向けた図書の本数は増えてきたが、それをもっと生徒達へ周知することも必要と感じた。</p> <p>○ビブリオバトルに参加した。</p>	B

自己評価【A：十分達成している B：おおむね達成している C：検討の余地がある D：不十分である】

結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
<p>○月1回の担当者会や、授業者アンケートの実施により、実施内容の伝達・調整がうまくいっている。            ○1年生の総合的な探究の時間は軌道に乗り、順調に展開されている。            ○2年生の探究は、担当の先生方のサポートもあり、試行錯誤しながら各班まとめの段階に入った。            ▲西都市からの補助金の使い方について、勝手に動いた班があり、事務部に迷惑を掛けた。生徒による決裁伺いの周知が遅れ、ちょっとした混乱が生じたことは、次年度改善したい。</p>	B
<p>○文理科学コース集会をはじめ、土曜講座、科学の甲子園勉強会を実施した。やるたびに縦の繋がりや一体感の良さを実感できたようだ。            ○オープンスクール10月では、「マニファクチャリング」を使った協働活動を実施した。それぞれの生徒が学年を越えた活動を良いものにしていく姿勢が見られた。</p>	A
<p>○2学期に行われた情報系の検定試験には、総合コースから必ず受験生徒が現れた。また英検も第2回・第3回への3年生の受験が続いている。            ▲英検・情報処理系等の資格・検定受験促進については、英語科・情報ビジネスフロンティア科の先生方にお任せになっている。</p>	B
<p>○1年生がインターンシップを実施した(33事業所)。生徒の希望ではなく職員で振り分けた事業所での実習であったが、これまで知らなかった職種を知ることのできた生徒も多く、仕事を知るきっかけ作りができた。また、3日間ではあったが社会に触れることができ、稼ぐことや働くことの大変さを実感することができた。            ○2年生が販売実習を実施した。準備期間が非常に短く心配ではあったが、無事終了することができた。この実習を通して、商業科目で学んできたことを実践することができた。生徒が成長することのできた実習であったと考える。リーダーシップをとれる生徒も増えてきた。多くの先生方にご協力いただき、ありがとうございました。(売上高約75万円)            ○3年生課題研究において、「宮崎プーゲンビリア空港デジタルサイネージ学生動画コンテスト」で高校生部門最優秀賞に選ばれた。3年生が台湾・韓国修学旅行プロデュース大会に出場し、一次審査通過した。            ○1・2年生全員が税の作文コンクールに応募し、うち2年生2名が税務署長賞を受賞した。</p>	B

自己評価【A：十分達成している B：おおむね達成している C：検討の余地がある D：不十分である】

結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
<p>▲聖陵セミナーについては、負担感をもっている職員も依然としており、職員の目線あわせが必要である。実施内容・実施時期・対象生徒がこちらの思うようなものになっておらず、目的・ねらいを含めて見直す必要がある。</p>	B
<p>○地域から様々なボランティアの依頼が寄せられており、教頭や学年からの呼びかけにより、多くの生徒が参加している。</p>	A
<p>○地域や同窓会、PTAと連携を図り、生徒達が地域の行事やイベントに参加した。 ●地域と共にある学校として、母校としての成就感をもっと身につけるような取り組みをしたい。</p>	B
<p>○学校看板は、広報委員会の生徒が中心となって、毎月新作を掲示出来ている。 ○妻高だよりは、掲載された各部・各学科主任にも目を通して頂き、チェック機能を強化できた。 ○SNSについては、広報委員会・2年生総合的な探究の時間のインスタ班の生徒を中心にタイムリーな情報発信が出来ている。</p>	A
<p>○今年度の9月3日（水）聖陵セミナー初回時に文理科学コース担任の3名がセミナー会場を訪れ、コースのアピールを行った。</p>	A
<p>○ボランティアとして第2回オープンスクールに延べ45名妻中1年生キャリア学習に延べ13名参加してくれた。英検ボランティアも日程が厳しいなか3年生を含む生徒が参加してくれた。 ▲前年度のうちから次年度の実施予定日を担当部署と連携し、双方の無理のない日程決定を行わないと、今後行事そのものの運営ができなくなる危機感を持った。</p>	B